

玉泉寺の石仏群

指定文化財の石仏

安曇川町田中の三田集落の一段高い位置に建つ玉泉寺の山門をくぐると、本堂に向かって右手のやや小高いところに、厚さ約50cmの花崗岩を使って丸彫りの技法で造られた石仏が並んでいます。これらは「玉泉寺石仏群」として、高島市の有形文化財に指定されています。

石仏は、いずれも結跏趺坐(左足の足の甲を反対の足のものの上に交差し、足の裏が上を向くように組む座り方)した姿で、大型の5体は五智如来と呼ばれています。五智如来とは、密教の教えにある5つの知恵を象徴する如来のことです。通常は、大日、阿闍、宝生、阿弥陀、不空成就の5如来のこととされています。玉泉寺の五智如来は、向かって左から、両手を膝上で重ねているのが阿弥陀如来(像高158cm)、右手を上げて手の平を前に向け、左手を膝上に置いて薬壺を捧げているのが薬師如来(165cm)、頭上に

宝冠を頂き、膝上で左手の上に右手を重ねているのが大日如来(160cm)、右手をあげ手の平を前に向け、左手を膝前に置いて指先で地面に触れているのが弥勒仏(143cm)、そして右手を上げ手の平を前に向け、左手は手のひらを上に向けて膝の上に置いているのが釈迦如来(142cm)とされています。



玉泉寺の変遷

石仏のある玉泉寺は、遍照山の山号をもつ天台真盛宗の寺院です。境内に残る元文4年(1739)鑄造の梵鐘に刻まれた銘文によると、天平年間(729〜748)に行基によって開かれ、享祿4年(1531)に火災に遭い、境内の多くの建物を失いましたが、天文2年(1533)に田中郷主・田中理春が寺の荒廃を嘆き、西教寺第四世の真叡上人に願い出て復興を果たした、とされています。

一方で、本堂は慶応3年(1867)に現在の場所に移築されたもので、それ以前は、現在地の約100m北にあったと伝えられています。

境内の石造文化財

玉泉寺の境内には、先に紹介した石仏群の他に、鎌倉時代の作とされる阿弥陀如来石仏や石造宝塔、五層の塔などがある他、寺地に続く共同墓地にも三昧鳥居や六観音など多数の石造文化財が存在

します。これらからは玉泉寺の古い歴史と地域の人々の厚い信仰をうかがうことができます。



閩文化財課 (25)8559

編集感

今月号の表紙の写真は高島市内で飛行展示が行われたブルーインパルスの見事な編隊飛行の様子です！

後で知ったのですが、ブルーインパルスが飛行するイベントでここまで晴れるのはなかなか珍しかったようで、貴重なシーンを沢山写真に収めることができました！「たかP写真館」で紹介していますので、ぜひご覧ください！(Y)